

【質問】 病院に入院中の友人が検査や治療の計画を詳しく説明され、とても安心したそうです。「クリニカルパス」というそうです。詳しく教えてください。

(58歳・男性会社員)

クリニカルパス

【回答】 従来の医療は各医師が患者ごとに最善と考える検査や治療を行っていました。患者は医療の知識

が不十分なので医師の方針に従わざるを得ず、必ずしも患者の納得を十分得られていないケースがあったと思われま。また、医師により治療内容のばらつきが大きかったのも事実です。これらのことより、医療を標準化し、患者が治療に

医療制度



で、各種がんや脳梗塞(こうそく)、心筋梗塞、糖尿病、大腿骨頸部(けいぶ)骨折など

さらにクリニカルパス導入で医療を標準化し、科学的根拠に基づいた治療を行うため、一定の医療の質が保たれ、無駄な検査や投薬を減らすことも可能になります。パスによって医療従事者すべてが患者情報を共有できるため、連携が進み

症状ごとに治療計画作成

対して十分納得できるように米国で考案されたのがクリニカルパスです。最近、日本でも多くの医療機関がクリニカルパスを採用するようになりました。

クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査のスケジュールを表にまとめたもの

の病気(けが)ごとに作られています。病院用と患者用の2種類あり、患者用には入院後のスケジュールが詳しく記されています。手術後、「いつから入浴できるか」「点滴はいつ外れるか」など生活の手順が分かるので、入院生活を安心して送れます。

「チーム医療」を実現することができま。そのため、医療の安全性が増すことも期待されています。病院内だけで用いるクリニカルパスのほか、病院と診療所連携の手段として地域の医療機関で広く用いられる「地域連携パス」が

情報共有で安全性向上

あり、こちらも各地に広まっています。病院で手術などの急性期の治療を終えて病状が安定した患者を、かかりつけ医が引き継ぐ際に、病院とかかりつけ医、患者が情報を共有できるように、退院後の検査や投薬を含む治療のスケジュールを詳しく記した表です。普段はかかりつけ医の治療を受けつつ、定期的に病院の診察を受けたり、病状の急変時には病院に緊急入院したりすることもできるわけです。地域の医療の標準化と医療の質の向上が得られ、薬などの副作用のチェックが容易になるなど、地域連携パスは「病・診連携」に欠かせないものになると思われます。(県医師会)